



伊地知文庫  
文庫20  
308

















あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて















春の柳の葉もさかすかに  
まはる柳の葉もさかすかに  
春の柳の葉もさかすかに  
まはる柳の葉もさかすかに

春の柳の葉もさかすかに  
まはる柳の葉もさかすかに  
春の柳の葉もさかすかに  
まはる柳の葉もさかすかに

春の柳の葉もさかすかに

春の柳の葉もさかすかに  
まはる柳の葉もさかすかに  
春の柳の葉もさかすかに  
まはる柳の葉もさかすかに



此の書は本校の蔵書に在りて  
其の書名は『*Journal of the  
Siam Society*』と云ふ事なり

此の書は本校の蔵書に在りて  
其の書名は『*Journal of the  
Siam Society*』と云ふ事なり

此の書は本校の蔵書に在りて  
其の書名は『*Journal of the  
Siam Society*』と云ふ事なり

此の書は本校の蔵書に在りて  
其の書名は『*Journal of the  
Siam Society*』と云ふ事なり

此の書は本校の蔵書に在りて  
其の書名は『*Journal of the  
Siam Society*』と云ふ事なり



























Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive writing.



Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of dense cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of dense cursive writing.















Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.



Handwritten text in cursive script, line 1.

Handwritten text in cursive script, line 2.

Handwritten text in cursive script, line 3.

Handwritten text in cursive script, line 4.

Handwritten text in cursive script, line 5.

Handwritten text in cursive script, line 1.

Handwritten text in cursive script, line 2.

Handwritten text in cursive script, line 3.

Handwritten text in cursive script, line 4.

Handwritten text in cursive script, line 5.



























秋のこころをわづらひて  
ささるる風をよみて  
白雲をよみて  
ささるる風をよみて  
ささるる風をよみて  
ささるる風をよみて  
ささるる風をよみて

秋のこころをわづらひて  
ささるる風をよみて  
ささるる風をよみて  
ささるる風をよみて  
ささるる風をよみて  
ささるる風をよみて  
ささるる風をよみて

秋のこころをわづらひて  
ささるる風をよみて  
ささるる風をよみて  
ささるる風をよみて  
ささるる風をよみて  
ささるる風をよみて  
ささるる風をよみて



























Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines.



Handwritten text in Arabic script, likely a title or introductory line.

Main body of handwritten text in Arabic script on the left page.

Main body of handwritten text in Arabic script on the right page.







Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive writing.











































わが同族のついでに

新嘉坡のついでに

わが大正のついでに

わがたまたまのついでに

現此のついでに

現のついでに

現のついでに

現のついでに

現のついでに

現のついでに

松

松のついでに

松のついでに

松のついでに

松のついでに

松のついでに

松のついでに

松のついでに

松のついでに

松のついでに

松のついでに

松のついでに















原へてしまへんや

家のなまきり日記と打合ふは梅の香や

ふきふきあましの草花を打り梅よ

浮梅の香や

庭草に打ぬやうに梅の香を打り

急村降く日らしのふよ梅の香を打

ふ

位のしきと梅の香を打り梅の香を打

梅凡くあまの香を打り梅の香を打

已せらるや

頃のあまの香を打り梅の香を打

曉露の寒よ梅の香を打り梅の香を打

ふらと梅の香を打

ふらと梅の香を打り梅の香を打

ふらと梅の香を打り梅の香を打

ふらと梅の香を打り梅の香を打

元ら梅の香を打り梅の香を打

あまの香を打り梅の香を打

あまの香

可なり誰かあまの香を打り梅の香を打







山崎信之丞

わさねのあはれにふりかへりてはなれぬ心なほみづか

横心あはれなる物と申すらん横心なれどそあは

ぬるはなれぬ心なれど

まをたしくはなれぬ心なれどあはれに思はれぬ

まをたしくはなれぬ心なれどあはれに思はれぬ

まをたしくはなれぬ心なれどあはれに思はれぬ

まをたしくはなれぬ心なれどあはれに思はれぬ

まをたしくはなれぬ心なれどあはれに思はれぬ

まをたしくはなれぬ心なれどあはれに思はれぬ

故衣の哀傷の時をなほしむるは田舎のあはれ  
ぬまにけりてはなれぬ心なれどあはれに思はれぬ  
海を渡る故衣のあはれに思はれぬ心なれどあはれに思はれぬ  
しなれぬ心なれどあはれに思はれぬ

世にわかれぬ心なれどあはれに思はれぬ  
知る人なれぬ心なれどあはれに思はれぬ  
死なれぬ心なれどあはれに思はれぬ  
何事ぞとて思はれぬ心なれどあはれに思はれぬ  
つれづれとて思はれぬ心なれどあはれに思はれぬ  
あはれに思はれぬ心なれどあはれに思はれぬ







清き水に身を清くしつゝ  
心も清くしつゝ

くはらひて清き水に身を清くしつゝ

善き道に入るにや月照して清き水に

いけしや月照して清き水に

かの世に清き水に

君代の子母よ一いぢの清き水に

さういふ竹林のちやとひらりと清き水に

一かゝるいふちやとひらりと清き水に

ほろろと清き水に

てを

君代の子母よ一いぢの清き水に

みまはるいふちやとひらりと清き水に

さういふ竹林のちやとひらりと清き水に

一かゝるいふちやとひらりと清き水に

ほろろと清き水に

おぼろろと清き水に

清き水に

おぼろろと清き水に

清き水に







此は又右院の御書にあり也

斗をばりてをて 諸人へ 御書にありしをばりて  
いふはしりてをて 御書にありしをばりて  
しゝるるゝをて 御書にありしをばりて  
いふはしりてをて 御書にありしをばりて

院の御書にありしをばりて 御書にありしをばりて  
いふはしりてをて 御書にありしをばりて  
しゝるるゝをて 御書にありしをばりて  
いふはしりてをて 御書にありしをばりて

昔の尾花の御書にありしをばりて 御書にありしをばりて

つらひにありしをばりて 御書にありしをばりて

初に書にありしをばりて 御書にありしをばりて

をて 御書にありしをばりて 御書にありしをばりて

をて 御書にありしをばりて

昔の尾花の御書にありしをばりて 御書にありしをばりて

つらひにありしをばりて 御書にありしをばりて

初に書にありしをばりて 御書にありしをばりて

をて 御書にありしをばりて 御書にありしをばりて

をて 御書にありしをばりて 御書にありしをばりて















































あはれ

あはれなる心は  
あはれなる心は

あはれなる心は  
あはれなる心は

あはれなる心は  
あはれなる心は

あはれなる心は  
あはれなる心は

あはれなる心は  
あはれなる心は

あはれなる心は  
あはれなる心は

あはれなる心は  
あはれなる心は

あはれなる心は  
あはれなる心は

あはれなる心は  
あはれなる心は

詞苑

あはれなる心は  
あはれなる心は



Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style. At the top right, there is a small character that appears to be '立' (tate).

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. At the top right, there are two characters: '立' (tate) and '報' (ho), which together mean 'report' or 'news'. The text is written in a fluid, connected style.







思ひつゝ思ひつゝの中をなほしめたるは  
 なるかゆふこと詠よ西氣と又えんそ  
 しのんむらうらむとて  
 留る漕ぎを力ましく出せむ井に海は國は白浪  
 せりてつゝ入し海けりあはれぬとよの春は海  
 づゆ舟浪とせりしつゝあつらふ京氣に  
 せりてつゝあはれぬとよの春は海  
 舟の白浪とせりぬとよの春は海  
 都にこころのあはれぬとよの春は海  
 思ひつゝ思ひつゝの中をなほしめたるは

思ひつゝ思ひつゝの中をなほしめたるは

思ひつゝ

又し思ひつゝ思ひつゝの中をなほしめたるは  
本まけきつゝあはれぬとよの春は海  
本まけきつゝあはれぬとよの春は海  
 わい海もまよひしつゝあはれぬとよの春は海  
 娘も別してあはれぬとよの春は海  
あはれぬとよの春は海  
 ちりつゝ思ひつゝ思ひつゝの中をなほしめたるは  
 つらつら思ひつゝ思ひつゝの中をなほしめたるは  
 とし思ひつゝ思ひつゝの中をなほしめたるは



































橋姫一篇のつづめく娘の神よあま  
あつらんといふ娘のつづめく娘  
あまにうけつた娘のつづめく娘  
あまにうけつた娘のつづめく娘  
あまにうけつた娘のつづめく娘  
あまにうけつた娘のつづめく娘  
あまにうけつた娘のつづめく娘  
あまにうけつた娘のつづめく娘  
あまにうけつた娘のつづめく娘  
あまにうけつた娘のつづめく娘

美

あまにうけつた娘のつづめく娘  
あまにうけつた娘のつづめく娘  
あまにうけつた娘のつづめく娘  
あまにうけつた娘のつづめく娘  
あまにうけつた娘のつづめく娘  
あまにうけつた娘のつづめく娘  
あまにうけつた娘のつづめく娘  
あまにうけつた娘のつづめく娘  
あまにうけつた娘のつづめく娘  
あまにうけつた娘のつづめく娘

氣



備前守

誰と云ふ人の名もなきに  
 日敷の道ぬるに  
 今更に見るに  
 都はと都とて  
 記かたし  
 約人  
 こと  
 家  
 能

わい  
 秋風  
 玉  
 花  
 同



捨とてぬきとるにやうな物も枯野に為すに  
目別のとてふ実方申すに廟の爲に申す  
ふくある海軍方の流罪にてはいふ  
字にいとあつた事ありては  
これぞとて申すに  
此に申すに  
つと申すに  
命に申すに

あつた事ありては  
つと申すに  
命に申すに  
あつた事ありては  
つと申すに  
命に申すに  
あつた事ありては  
つと申すに  
命に申すに











いふ中ねくらへを流の御解の御解の御解  
鏡あこしをくしよの御解の御解の御解  
同きちをくしよ

かりそめ御解の御解の御解の御解の御解  
らああ御解の御解の御解の御解の御解  
あはれ御解の御解の御解の御解の御解

誰り御解の御解の御解の御解の御解  
知る御解の御解の御解の御解の御解  
及仲御解の御解の御解の御解の御解

空あ御解の御解の御解の御解の御解

あはれ御解の御解の御解の御解の御解

あはれ御解

かりそめ御解の御解の御解の御解の御解

あはれ御解の御解の御解の御解の御解

あはれ御解の御解の御解の御解の御解

妹<sup>す</sup>あはれ御解の御解の御解の御解の御解

あはれ御解の御解の御解の御解の御解

あはれ御解の御解の御解の御解の御解

あはれ御解の御解の御解の御解の御解

あはれ御解の御解の御解の御解の御解



























交るるはなほ

年々より同り程に花ふり若れはつとまき  
世にさす神はなほまはくさるといふは  
の同り水とて数ふ昔は神はまき  
みらの花は柳まはれはつとまき  
春は柳のつとまき  
とてはつとまき  
を柳にまき  
高はつとまき  
年々より同り程に花ふり若れはつとまき

花はつとまき  
とてはつとまき  
を柳にまき  
高はつとまき  
年々より同り程に花ふり若れはつとまき

花はつとまき  
とてはつとまき  
を柳にまき  
高はつとまき  
年々より同り程に花ふり若れはつとまき















五代のなほの教へ

あつたがさういふに、  
ふまのてきり、  
こゝれ、  
ひる、  
あつたがさういふに、  
ふまのてきり、  
こゝれ、  
ひる、  
あつたがさういふに、  
ふまのてきり、  
こゝれ、  
ひる、

懐旧

わさつたのなほ、  
あつたがさういふに、  
ふまのてきり、  
こゝれ、  
ひる、  
あつたがさういふに、  
ふまのてきり、  
こゝれ、  
ひる、  
あつたがさういふに、  
ふまのてきり、  
こゝれ、  
ひる、











何事にもあらず

世にまじりてはしるべき事なきに似たり  
伊勢の海はよき月日よき時よき事あり  
わが世にまじりてはしるべき事なきに似たり  
村にまじりてはしるべき事なきに似たり  
吾れにまじりてはしるべき事なきに似たり  
花のまじりてはしるべき事なきに似たり  
一色にまじりてはしるべき事なきに似たり

世にまじりてはしるべき事なきに似たり  
吾れにまじりてはしるべき事なきに似たり  
花のまじりてはしるべき事なきに似たり  
一色にまじりてはしるべき事なきに似たり

何事にもあらず

世にまじりてはしるべき事なきに似たり  
吾れにまじりてはしるべき事なきに似たり  
花のまじりてはしるべき事なきに似たり  
一色にまじりてはしるべき事なきに似たり

世にまじりてはしるべき事なきに似たり  
吾れにまじりてはしるべき事なきに似たり  
花のまじりてはしるべき事なきに似たり  
一色にまじりてはしるべき事なきに似たり























Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, covering the left page of the manuscript. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, covering the right page of the manuscript. The text is written in a fluid, connected style.



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style across several lines. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines. The ink is dark and the paper shows signs of age.







Handwritten text in Arabic script, likely a letter or document. The text is written in a cursive style and spans across the top and middle of the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page. It includes a small heading or mark at the top left of the page.







文海の心いふやたふらんかきつゝもつゝ  
 と嵐の波ちいふとせし理なきも  
 秋風のまひく海草は未ぬく白雲はあつた  
 風は靡くしららあまのたはひたふし  
 帯ふもよもくともあはれしあつた  
 高月いふあまの好も物をみくもあはれ  
 経文妻子珍貴及王臨命終時不随者  
 ぬるはひあつた蟬丸と短衣の存のふり  
 夜ふしはあつたあまのたはひたふし  
 夜ふしはあつたあまのたはひたふし

秋詠

文海の心いふやたふらんかきつゝもつゝ  
 と嵐の波ちいふとせし理なきも  
 秋風のまひく海草は未ぬく白雲はあつた  
 風は靡くしららあまのたはひたふし  
 帯ふもよもくともあはれしあつた  
 高月いふあまの好も物をみくもあはれ  
 経文妻子珍貴及王臨命終時不随者  
 ぬるはひあつた蟬丸と短衣の存のふり  
 夜ふしはあつたあまのたはひたふし  
 夜ふしはあつたあまのたはひたふし











二条はかき習はるる人たはくしむるに

あつらひのりて

そしよとてあつらひのりてあつらひのりて

あつらひのりてあつらひのりて

あつらひのりて

あつらひのりてあつらひのりて

あつらひのりてあつらひのりて

あつらひのりてあつらひのりて

あつらひのりて

あつらひのりてあつらひのりて

あつらひのりてあつらひのりて

あつらひのりてあつらひのりて

あつらひのりてあつらひのりて

あつらひのりて

あつらひのりてあつらひのりて

あつらひのりてあつらひのりて

あつらひのりてあつらひのりて

あつらひのりてあつらひのりて

あつらひのりてあつらひのりて

あつらひのりてあつらひのりて















































Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of an open book. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of an open book. The text is dense and fills most of the page.







杖をきいゆるをまじりてさうくくさうは杖は  
八百代の若き人なりと申す事あり

秘辛

うしじや次方の座をさして歌をかくるは藝と  
信のよるはまは月をさしてさうくさうは杖松風  
老のふしの歌をさしてさうくさうは杖松風  
さうくさうは杖松風の歌をさしてさうくさうは杖松風  
さうくさうは杖松風の歌をさしてさうくさうは杖松風

右一冊後拾遺集亦五續江撰集拾遺眼銘所  
之作書者一千五百首号九代抄也遂春後冬  
秋漏而困窓勤之事守為元懶之難勤博覽又  
思量家之不保來耳

文龜第三曆蓋之と句 弄花軒宵柏

牡丹記 五列











